

若獅子神社の草刈り清掃、青年隊記念碑周辺の草刈り清掃、吉留先生の墓参を終えて

産業開発青年隊同窓会長 鈴木 浩明

令和3年8月8日、若獅子神社の草刈り清掃、青年隊記念碑周辺の草刈り清掃、吉留先生の墓参に行ってきました。

吉留先生のことを思い出すと、「散る桜、残る桜も、散る桜」の詩を思い出します。この墓参の前日、「ラストサムライ」をたまたま見ました。

江戸時代より明治維新の急進的な西洋化の中で、あえて負け戦とわかりながら、少数で、近代兵器を使わず日本人の心である「武士道の精神」を残すため戦った男と、それを助けたアメリカ人の物語でした。

その戦の最後に、散る桜を見ながら、見事だと言い残したその思いに感動しました。

男だったならば、負けるとわかっていても戦にあえて向かわなければならぬ時がある。その時、最大限の力を出し、たとえ負けたとしても、潔い死にざまを迎えることにより、勝ったものに対しても、感動を残すことができるのでしょう。その時の情景に散る桜が現れたのだと思います。

映画を見た感動が消えることなく、若獅子神社、青年隊記念碑、吉留先生の墓参に行くことができました。

負けたとしても感動を残すためには、生きていときに精一杯生きること、裏切られても、だまされても、報われなかったとしても、その行為がどのように現れても、見えぬ力に感謝し、そして身をゆだねること。それらの積み重ねで感動を与えることのできる死にざまを残すことができるのでしょう。精一杯生きたからこそ、安らかに死を迎えられるのでしょう。

めぐりあわせに感謝をしながら、心熱く一日を終えることができました。

PS フェイスブックにも投稿しました。同窓会の会員の皆さんから返信がありました。

福沢 浩 先輩      ありがとうございました。

北原 修 先輩      いつも大変お世話になります。感謝いたします。

小長谷 正弥先輩      ありがとうございました。

大屋 誠一郎先輩      いつもお世話になりありがとうございます。機会があれば、石川先生によりしくお伝えください。海外課程時にご自宅に泊まらせていただき、多方面でいろいろとご厄介をおかけしました。お元気で何よりです。

鈴木 返信      先輩方、ありがとうございます。私たちの記念碑であり、これからも青年隊同窓会が守っていかなければならないものです。皆さんに関心を持っていただき、一人でも多くの方に参加していただければ幸いです。



若獅子神社の境内の中。落ち葉と雑草が生えてしまっていました。



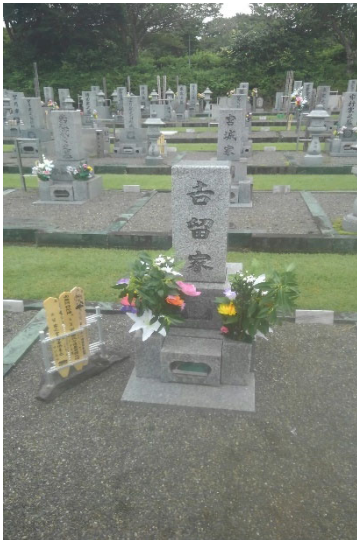
同上



青年隊記念碑の前、雑草が大きくなってしまっています。



草刈りの状況



吉留先生のお墓



墓参状況、右から菅井事務局長、中、石川祐三先輩、市川光信君



きれいになりました。



同上